しろぢり

第 107 号

2021 年 1 月
日本野鳥の会三重　http://miebird.org/

紀伊長島大島の鳥とドブネズミ

津市　平井 正志

当会、日本野鳥の会三重は 2020 年 10 月、紀北町 紀伊長島沖 大島で繁殖するオオミズナギドリに悪影響を与えている可能性が高いとして、同島に棲息するドブネズミ駆除を環境大臣に対して要請しました。

大島について

紀伊長島の沖合の大島はオオミズナギドリが繁殖する島です。面積は約 9.8 ha, 最高点　89.2 m の無人島で常緑樹林に覆われ、「大島暖地性植物群落」として、同島の植生は国指定の天然記念物になっています（図 1）。

オオミズナギドリは夏に島に飛来し、地上に穴を掘り、卵を 1 卵産み。ヒナを育てます。ヒナは秋に飛べるようになり、海に出ます。京都府冠島での調査の結果では、その後、4 年間は繁殖地に戻らず、海上で過ごします。オオミズナギドリの詳細については「しろちどり」105 号の拙稿を参照ください（平井 2020）。

この島にはカラスバトも生息しています。カラスバトは大島と同じく紀伊長島沖の無人島、鈴島に生息するとされており（堀内 2014）、2019 年の環境省の調査でもカラスバトの棲息が確認されています（環境省 2020）。また、標識調査によると 1982 年にウチヤマセンニュウと推定される鳥が 1 羽捕獲、放鳥されています（注 1）。当時はシマセンニュウの亜種とされていたので、記録としてはシマセンニュウとされていますが、繁殖期であり、ウチヤマセンニュウの可能性が非常に高いと思われます。ウチヤマセンニュウのその後の記録はありません。なお、ウチヤマセンニュウは志摩市、和具大島でも繁殖しており、2018 年にも繁殖が確認されています（中村みつ子：私信）。その他堀内 (2014) によるとハヤブサも繁殖しているとのことです。

武田は 2001 年 に三重県環境県民会議の助成を受け、離島を調査した。その中で、大島に上陸しており、足跡からノウサギとイタチが生息しているとしています（武田 2001）。

離島のドブネズミ

ドブネズミ (*Rattus norvegicus*) はオオミズナギドリの卵やヒナを捕食します。船に棲み着いていたドブネズミが接岸時に島に侵入し、棲みついたものと考えられます。世界各地の離島でもドブネズミが棲み着き、離島で繁殖する鳥の大敵となっており、駆除に取り組まれています。固有の飛べない鳥が生

目次

紀伊長島大島の鳥とドブネズミ ---------- 2
表紙の言葉---------- 2
タカの渡り　2020 年---------- 4
記憶のなかの鳥たち ～ 3 話～---------- 5
2020 年秋のミヤコドリ～お帰りなさい T7 ～------- 5
2020 年のミヤコドリの飛来状況 ---------- 7
シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化
— 連載第 22 回 ジシギ 5 種（タシギ、オオジシギ、
チュウジシギ、ハリオシギ、アオシギ）と近縁種ヤマシギ— -- 8
ほのぼの鳥さん Watching
～ふわもふ巣立ちビナ～----------14
野鳥記録----------16
理事会報告----------20
事務局だより ----------20
探鳥会予告 (2021 年 1 月～ 3 月) ----------21
探鳥会報告（2020 年 9 月～ 2020 年 11 月）--------22
ツイッター始めました ----------24
編集後記----------24

表紙の言葉

ミヤマホオジロ

津市　平井 正志

静岡の清水にいた頃、鳥を見始めた。しかし、ミヤマホオジロは全く見たことがなかった。いるという話さえも聞かなかった。安濃へ移ってすぐにミヤマホオジロのオスを見た。数は多くないが、林の中でひっそりと暮らす冬鳥。西日本では比較的多いようである。朝鮮半島では繁殖している。西日本でもいくつか繁殖が見られるようであるが、拡大しているのであろうか？

息するニュージーランドの離島や、各種の海鳥の繁殖するスコットランドの離島ではとりわけ、精力的に駆除に取り組まれています。日本の海鳥繁殖地でも、ドブネズミによる被害は深刻で、京都府舞鶴沖の冠島、石川県能登半島沖の七ツ島大島、北海道南端、日本海の渡島大島などではドブネズミによるオオミズナギドリへの被害が報告されています。そのいくつかでは駆除が試みられています。駆除には毒餌を撒くか、あるいは毒餌を入れた餌箱を設置するなどの方法が取られています。

図 1　紀伊長島沖の大島、背景は大台ケ原山系

大島のオオミズナギドリの現状

大島でのオオミズナギドリの繁殖は以前から知られており、地元の漁師の間では魚群を教える鳥として「まとり」と呼ばれてきました（倉田 1971）。1982 年には須川 恒により成鳥 14 羽が捕獲、標識され、また、1983 年には樋口 行雄によりヒナ 19 羽が標識されています（注 1）。しかし、その後標識調査はされていません。オオミズナギドリの巣穴の数は全数の調査が難しいので、一部を計数し、全数を推定しています。

また、巣穴入り口付近の落ち葉の堆積状況などから、親鳥が使用している巣穴を推定することができます。巣穴は 1982 年に須川恒により 457 と報告されています（須川 2010）。また、2019 年の環境省の調査によると巣穴の数は 726、そのうちオオミズナギドリが使用していると推定される巣穴数は 219 と推定されました（環境省 2020）。巣穴の数だけで、オオミズナギドリが減少しているか否かはわかりません。2019 年 9 月の調査で巣穴約 40 をファイバースコープで調べてもヒナを一羽も発見できませんでした。ヒナが正常に生育していたなら、成長したヒナがまだいるはずの時期です。同時に設置したセンサーカメラにはネズミが高頻度で撮影されていました。

大島にはドブネズミの棲息が以前から知られていたらしく、2010 年に田中川生き物調査隊によって生息が確認され、7 頭が捕獲されています (著者不詳　2010)。また、2011 年 6 月には 12 頭が捕獲されています（清水ら 2019）。2019 年に撮影されたネズミはこれまでの調査で、離島で繁殖する海鳥のヒナなどを捕食するドブネズミである可能性が高い。2019 年の調査結果から、オオミズナギドリのヒナがドブネズミの深刻な食害にあっている可能性が極めて高いと考えられます。一刻も早い駆除が望まれるところです。

謝辞：　大島の生物に関する情報収集については紀北町生涯教育課 植村 敏行氏、および三重県総合博物館 佐野 明氏、および環境省中部地方環境事務所の協力を受けた。ここに謝意を表す。

注 1：標識調査データ利用については山階鳥類研究所の許可を得た（山階保全第 2-106 号）

引用文献

環境省 (2020) 平成 31 年度 国指定紀伊長島鳥獣保護区鳥類生息状況調査業務報告書。環境省中部地方環境事務所、名古屋

倉田 篤 (1971) 紀伊長島の鳥類。紀伊長島

清水善吉、梅村有美、山本和彦 (2019) 熊野灘島嶼の哺乳類、爬虫類、両生類および植生概要。南紀生物 6:113-119.

須川 恒 (2010)：1982 年の大島 (三重県紀伊長島町) におけるオオミズナギドリの巣穴分布調査　アルラ　No.40: 20-27

武田 恵世 (2001) カンムリウミスズメ（孫太郎）の繁殖する島の条件は？ 平成 13 年度文化財調査報告書。紀伊長島町教育委員会・文化財調査委員会、紀北

著者不詳 (2010) 紀伊長島の大島
https://blog.goo.ne.jp/tanakagawa_shinogi/e/e5e0dcfd54002deccd042561e7183a1f
(2020 年 11 月閲覧)

平井正志 (2020) オオミズナギドリの思い出。しろちどり No.104: 6-7.

堀内 弘 (2014). 堀内弘大いに語る紀伊長島の海と鳥。しろちどり No.79: 1-4. および No.80: 1-3.

タカの渡り　2020 年

四日市市　笹間 俊秋

庭田山

今年もタカの渡りを観察に 9 月中旬から庭田山頂公園の展望台へ行きました。例年なら 15 日を過ぎるとサシバやハチクマが渡っていきますが、今年は 20 日過ぎまでほとんど飛びませんでした。それ以降は 20 羽前後のサシバ、ハチクマが飛翔していき、ピークは 9 月 29 日、サシバ 67 羽、ハチクマ 10 羽、ノスリ 15 羽、クマタカ 1 羽が通過していきました。10 月に入ると徐々にサシバ、ハチクマの数は減っていき、ノスリ中心になりました。

10 月 12 日には渡りの観察を続けていた知り合いがハイイロチュウヒの渡りを目撃しました。通常、チュウヒ類の渡りは、ほとんど観察されていませんので貴重な記録となりました。

庭田山で渡りが観察されたハイイロチュウヒ
撮影：砂田 安俊

庭田山・二ノ瀬峠を渡っていくハチクマ

表　伊勢タカ渡り　（2020 年）　観察結果

月日	時間	天気	サシバ	ハチクマ	ミサゴ	計	備考
9月22日(火)	8:00～9:30	晴	0	0		0	
9月23日(水)	観察せず					―	
9月24日(木)	9:45～10:30	小雨/曇	0	0		0	
9月25日(金)	観察せず					―	
9月26日(土)	8:20～10:00	曇	0	0		0	
9月27日(日)	7:00～9:40	晴	2	0		2	
9月28日(月)	8:00～10:00	晴	0	0		0	
9月29日(火)	11:00～12:00	曇	2			2	
9月30日(水)	7:30～10:00	快晴	109	7		116	伊良湖岬　742
10月1日(木)	7:30～10:00	曇	0			0	
10月2日(金)	8:00～10:00	快晴	0			0	
10月3日(土)	観察せず					―	
10月4日(日)	8:00～10:00	曇	3			3	
10月5日(月)	観察せず					―	
10月6日(火)	7:00～10:00	快晴	4			4	
10月7日(水)	7:00～10:00	晴	51		1	52	南コース高い
10月8日(木)	観察せず					―	
10月9日(金)	観察せず					―	
10月10日(土)	観察せず					―	
10月11日(日)	7:50～10:00	快晴	10	2		12	真上　低い
10月12日(月)	8:30～10:00	曇	1			1	
10月13日(火)	8:30～10:00	晴	0			0	
合計			182	9	1	192	

伊勢

伊勢地方は有志の方が伊勢のやすらぎ公園から観察されていて、ここのピークは 9 月 30 日、サシバ 109 羽、ハチクマ 7 羽が観察されました。
詳細な記録は表を参照してください。

観察者：小坂里香・作田久春・
高木正文・中西章・西村泉・
濱屋勝則・廣共子・前田聡・
前田シズコ（五十音順）

感想：

- とにかく少なかった。コースが変わった、それ以外ない。（高木）
- 伊良湖岬で飛ぶ数が少ないため伊勢に来る確率も低かった。ピークらしいピークもなく、太平洋ルートは不作といえる。（中西）
- 全体的に少ないが 9 月 30 日はタカ柱を見ることができた。しかし快晴のため高度が高く、タカはゴマ粒のようだった。また 10 月 11 日は前日までの天候不良によりサシバが外宮の森で塒をとっていたらしく、突然低く現れた。（西村）

記憶のなかの鳥たち ～ 3 話～

玉城町　西村 泉

トラツグミ

第一話　夜明け前に…

かれこれ 30 年以上前の春だったと思う。その不気味な音は、まだうす暗い早朝　自宅の近い場所から聞こえてきた。ヒ―ヒ―　ヒ――　。金属的で途中さらに高くなり、まるで笛のようだった。「だれかが笛を吹きながら通って行く？！」窓からのぞいて見たが誰もいない。

何日か経って「今日こそは正体をつきとめてやろう」と決意、音が聞こえ始めるとすぐに外へ飛び出した。しかし、あたりは何事もなかったようにシーンと静寂が広がっているだけだった。

「あれは何だったのだろう？」ずっと心に引っ掛かっていたが、野鳥の会に入ってすぐに謎がとけた。それは音ではなくトラツグミの鳴き声だった。

第二話　頭の上から…

冬の日没は早い。夕方 5 時はもう薄暗く、飼い犬を急かしながら散歩していた。電柱の角を曲がったとたん、何かが電線にぶつかったようなバサッと鈍い音がし、次の瞬間ドスンと黒いものが足元に落ちてきた。私も犬も驚いて飛び退いた。懐中電灯で照らして見ると、口から血を流したヤマシギが横たわっていた。入会して間もないころの出来事だった。

第三話　眩しい光のなかで…

数年前、タカ渡りの観察に出かけたが不調のため、とある海岸へ寄ってみた。秋晴れの海岸、波打ち際を歩く。前方のカーブになっている汀線で、何やらキラキラ光っている。双眼鏡で見ると、その光のなかを 4 ～ 5 羽のシロチドリが右へ左へと、楽しくダンスしているかのように走っていた。

キラキラと光って見えたのは、小さな魚。たくさんの小魚がピチピチ跳ね、シロチドリが小魚を捕まえているところだった。小魚は陸に打ち上げられて間もないらしく、元気に跳ねるたびに銀色に輝いて綺麗だった。「今日は天気がよく波も穏やか、なのに小魚はどうしたのか？　大きな魚にでも追われたのだろうか？」などとシロチドリが嬉々として浜を駆ける光景を見ながら、ぼんやり考えていた。そして「このまま進んだら、きっとシロチドリは海上へ飛んで行ってしまう」そう思ったら慌てて踵を返し後戻りしていた。

2020 年秋のミヤコドリ　～お帰りなさい T7 ～

津市　平井 正志

2020 年夏のミヤコドリ越夏調査は 7 月 10 日に行われ、既報のように 9 羽であった（平井 2020）。秋のミヤコドリは 9 月に飛来しはじめた（本号別記事 p7 参照）。10 月 24 日に一斉ではこれまでの最高数、145 羽が記録された（表 1）。これは松阪港の防波堤の上に集合していたものであるが、県北部での高松海岸でもこの秋にミヤコドリの群れが時々観察されているので、ミヤコドリは伊勢湾全体を動いているものと思われる。

また、D. ドロフィーエフらによって 2019 年 7 月 15 日カムチャツカ半島西岸で標識され、昨冬伊勢湾西岸で越冬し、それ以降、行方がわからなくなっていたフラッグ T7 のミヤコドリは 11 月 14 日今井光昌氏により安濃川河口で撮影された（図 1）。越冬地に帰還したようである。この鳥は夏、2020 年 7 月 15 日から 19 日まで、北海道道南、太平洋側噴火湾に面した八雲町遊楽部（ユウラップ）川河口に滞在した（図 1）。地元の野鳥愛好者が見つけ、山階鳥類研究所に通報した。当地はこれまで、ミヤコドリが飛来したことは無かったとのことである。それ以外での観察の情報は今のところない。

一方、T7 ミヤコドリと同時に放鳥された、フラッグ T6 の付いたミヤコドリについては、日本野鳥の会東京の川内 博氏から情報が得られた。それによると、約 40 羽の群れと共に三番瀬付近で 6 月から 8 月に観察され、越夏し、この秋も健在であるとの

ことである。ちなみに東京湾ではこの秋 2020 年 11 月 1 日になんと 511 羽が記録されている。着実に増加しているようである。

ミヤコドリでは 5 年目にならないと繁殖しようとしない個体があると記載されており (Hayman et al.1986)。ほぼ同じ大きさの American Oystercatcher では繁殖年齢に達するのは 3 年から 4 年とされている (Hardin 2014)、ミヤコドリが繁殖年齢に達するのはおそらく 3 年目以降であろう。T7 がどこまで北に行ったか不明であるが、安濃川河口から繁殖地の、カムチャツカ西岸ハイリューソヴァ河口まで約 2900km、遊楽部川河口までは約 900km。カムチャツカまでの道のりの少なくとも三分の一くらいは移動した（図 1)。繁殖年齢に達しない若鳥は越冬地あるいはその周辺で過ごすことが多いのであろうが、一年目でも T7 は繁殖地へ帰る指向性を示したのであろう。一方、T6 は東京湾で越夏した。この違いは個体差によるものなのか、あるいは越夏地の餌などの外的条件によるものであろうか。

ミヤコドリが越冬するのは内海の干潟や河口で、餌となる二枚貝の多い場所である。このような場所は本州太平洋側では三河湾、伊勢湾、大阪湾、東京湾、駿河湾等以前はどこにでもあった。しかし今では伊勢湾西岸、東京湾三番瀬くらいなのであろうか。それ以外は商工業のために開発されてしまった。また、数千羽のミヤコドリが越冬するという韓国での状況も気になるが、残念ながら詳細な情報はない。この冬も当会では 12 月から 2 月までで 3 回のミヤコドリカウントを予定している。結果は来号で発表できるであろう。さらに増加していることを期待したい。

表　ミヤコドリカウント(2020/10/24)

調査地	個体数
高松海岸	0
鈴鹿川河口	0
鈴鹿川派川河口	0
楠海岸	0
豊津～町屋浦海岸	0
安濃川河口	0
阿漕浦～御殿場海岸	――――
雲出川河口右岸～五主海岸	0
雲出川河口左岸～雲出古川	0
三渡川河口～阪内川河口	0
松阪港	145
金剛川河口	0
櫛田川河口	0
松名瀬海岸～村松海岸	――――
合計	145

注：T7ラベルの個体は発見できなかった

調査員：今井鈴子、今井光昌、片山賢一
近藤義孝、笹間俊秋、田中洋子
中村洋子、平井正志、前田聡、
吉崎幸一（五十音順）

（上）図 1. ミヤコドリの繁殖地、越冬地

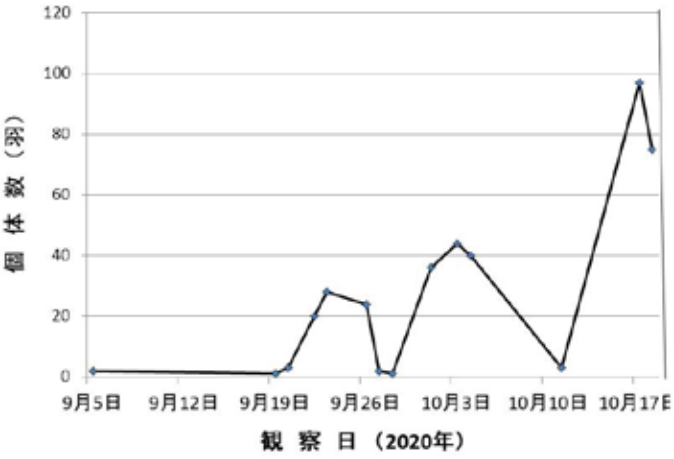
（右）図 2.　三重に帰来したミヤコドリ T7
安濃川河口にて　2020 年 11 月 14 日
今井 光昌　撮影

2020 年のミヤコドリの飛来状況

松阪市　吉崎 幸一

新型コロナ禍のためもあり、雲出川河口を含めた五主海岸での観察は時間帯も考え、出来るだけ短時間に切り上げるようにしていた。以下に雲出川河口、五主側からの観察記録を記す。従来に近い観察をしていた 2020 年 4 月 19 日は 61 羽、同 4 月 25 日には 71 羽と昨シーズンの越冬集団の観察ができていた。その後 5 月から 8 月はミヤコドリを全く見かけていないものの、正確な観察ができておらず個体数は不明な状態であった。

8 月末から再びこの場所における観察を再開したが、9 月 1 日まではミヤコドリは見られなかった。その後の観察状況は添付のグラフのように 9 月 5 日に久しぶりに 1 羽確認したのに始まり、徐々に観察できた数が増えた。伊勢湾全域での越夏調査で 9 羽いたことを考え合わせると、9 月 22 日の 20 羽が今シーズンの越冬集団の飛来を始めて確認できたものと思われる。その後もミヤコドリの数は増え、10 月 17 日に 100 羽近くになりその後も増えていることが観察できた。



雲出川河口の干潟のでき方は毎年のように変化しており、今シーズンも大雨や台風などによる環境の変化が心配される。特に餌の状況などの生息条件のためか、シギ・チドリ類は数も種類もかなり少なく全く観察できない日もある中で、ミヤコドリも数が減少するのではないかと当初は危惧していた。しかしこれまでの観察結果から今年も昨年同様若しくはそれ以上の個体数がこの近辺で越冬するものと期待される。

表1. ミヤコドリの飛来（2020年）

観察日	個体数
9月5日	2
9月19日	1
9月20日	3
9月22日	20
9月23日	28
9月26日	24
9月27日	2
9月28日	1
10月1日	36
10月3日	44
10月4日	40
10月11日	3
10月17日	97
10月18日	75

注：下記以前は河口に行っていませんでした。

ミヤコドリ

シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化
―連載第 22 回 ジシギ 5 種（タシギ、オオジシギ、チュウジシギ、ハリオシギ、アオシギ）と近縁種ヤマシギ―

津市　今井 光昌

ジシギとはシギ科タシギ属の総称です。ジシギ５種の中でオオジシギのみが北海道や本州北部の草原、九州以北の高原など日本でも繁殖しており、渡りの時期に各地の湿地や農耕地で見られます。

三重県で見られるジシギ類は、日本で繁殖するために渡ってくるオオジシギ（三重県では主に旅鳥）のほか、チュウジシギ、ハリオシギ、タシギの４種と、稀な記録しかないアオシギの５種です。夏から秋の渡りで最も早く渡来するのはオオジシギで、７月中旬に渡来するので、７月に見かけるジシギはオオジシギと思っていいほどです。旅鳥であるチュウジシギとハリオシギは８月初旬に渡来するので、８月の上・中旬にはオオジシギの他にチュウジシギ、ハリオシギが観察できます。渡来数の最も多いタシギは、旅鳥または冬鳥として８月下旬に渡来し、翌年の５月中旬まで滞在します。従って、８月中旬迄はジシギの識別上タシギを除外できると思います。三重県では 10 月の中旬頃まではチュウジシギが滞在することもありますが、下旬以降にタシギ以外のジシギを見ることはまずなく、春の渡りの時期に観察できるのはオオジシギか、その殆どが居残りのタシギということになります。なお、アオシギは冬鳥で、近縁種のヤマシギも三重県では冬鳥です。アオシギとヤマシギが渡来するのは早くても 11 月以降になります。両種は他のジシギと生息環境が異なり、畑や水田で採餌することはあっても主に山地の渓流に生息しており、独特な羽模様をしています。

タシギ

図１　タシギ　成鳥夏羽　2016.04.27

図２　タシギ　成鳥冬羽　2013.11.21

タシギはアオシギを除く類似のジシギ４種の中では嘴が最も長く、基部から先端までの太さがほぼ同じです。また、肩羽の淡色羽縁は外側が目立ち、斜線が並んでいるように見えます。眼先の黒褐色の過眼線は他の３種よりも太く、尾羽の先端は翼の先端より突出しています。（図 1-2）。幼羽肩羽の羽縁は内弁・外弁とも細いです（図３）。タシギは他のジシギ類より体全体に茶色味が強く暗色に見えます。

図３　タシギ　幼鳥　2015.09.03

図 4　タシギ　成鳥夏羽に換羽中　2020.03.23

ジシギ類の雌雄や年齢の識別は難度が高いですが、タシギの夏羽と冬羽は識別はできそうです。図 1 の個体は夏羽に換羽しており、図 2 の冬羽個体より全体に赤褐色味が強く羽色が鮮やかです。タシギは翼を広げる（図 4）と次列風切後縁が白く下雨覆も白いです。翼下面の白さが 4 種中最も目立ちます。オオジシギ、チュウジシギ、ハリオシギの 3 種の下雨覆は暗色で、3 種共に次列風切後縁に目立つ白色部はありません（図 8）。

オオジシギ

図 5　オオジシギ　成鳥夏羽後期　2019.08.05

図 6　オオジシギ　成鳥夏羽　2017.04.25

図 7　オオジシギ　幼鳥　2017.08.22

図 8　オオジシギ　成鳥　2015.08.03

オオジシギの渡去は早く、タシギが渡来する 8 月下旬以降にオオジシギを見かけることはまずありません。日本で見られるタシギ属の仲間ではオオジシギが最も大型です。体後部が長くてどっしりと重量感があるように見えることや（図 5-7）、全体が淡色に見える傾向にあること等でタシギやチュウジシギとほぼ識別出来ますが、ジシギは紛らわしい個体が多いこともあるので、尾羽の枚数や形状、色合いでの識別が最も確実です。なお、タシギの幼羽同様に、オオジシギ、チュウジシギ、ハリオシギ 3 種の幼羽肩羽の羽縁は細く（図 7）、年齢に関係なく翼下面は暗色です（図 8）。

尾羽の比較

タシギにはタシギの特徴があり、オオジシギ、チュウジシギ、ハリオシギにも各々の種の特徴がありますが、個体差もあるため、識別に行き詰まるケースも出てきます。そのような時には尾羽の枚数や色合い、形状が決定打になりますが、尾羽の部位が詳細に分かる写真を撮るのは容易でないため、現実的には識別上の限界があります。

図 9　タシギ　第 1 回冬羽　2011.11.29

図 10　オオジシギ　幼鳥　2006.08.16

図 11　チュウジシギ　成鳥冬羽　2012.09.04

図 12　ハリオシギ　幼鳥　2012.09.02

タシギは尾羽の枚数が通常 14 枚 (12 ～ 18) で尾羽の幅はほぼ均一です。最外側だけは白地に黒班が入りますが、尾羽全体は白っぽく見えます（図 9)。オオジシギの尾羽は通常 18 枚（16 ～ 18）で外側尾羽の幅はタシギより細く、チュウジシギよりは太いです。外側 3 枚は白い部分が多くて黒斑が散らばっています（図 10)。チュウジシギは通常 20 枚（20 ～ 22）で外側 5 ～ 6 枚は幅が狭くて、先端の白い部分以外は黒色部分が多く、その為に外側尾羽は暗色に見えます（図 11)。ハリオシギの尾羽は通常 26 枚（22 ～ 28）で外側尾羽 6 ～ 8 枚は針状で極端に細く短いので、他のジシギなら尾羽が撮れている場合でも撮れていないことが多いです。

図 12 は連射してなんとか写しとめた針尾です。中央尾羽と外側尾羽の落差が大きいです。尾羽は頼りにできる識別点なので、尾羽の枚数は撮れなくても外側尾羽の色合いだけでも撮れると種の識別に随分と役立ちます。

図 13　チュウジシギ　成鳥冬羽　2012.10.03

図 14　チュウジシギ　幼鳥　2013.09.16

チュウジシギ

チュウジシギは 10 月中頃まで居残ることがあります。三重を通過する個体は体全体が暗色に見える傾向にあり、頭側線はべったりとした黒の傾向があります（図 13-14）。大きさはタシギと同程度で、オオジシギよりはやや小さいです。また、タシギは眼先の黒い過眼線が淡色の眉斑の幅より広いですが、タシギ以外の 3 種は過眼線の幅が眉班よりも狭い傾向にあります。次列風切後縁の白線は細くてタシギのように目立ちません（図 15）。

図 15　チュウジシギ　成鳥　2008.09.07

ハリオシギ

三重県中部地域でこれまでに出会ったジシギの内、次の 5 個体をハリオシギと判断しています。2018 年 5 月 10 日（図 16）、2012 年は 8 月 11 日（図 17）、2012 年 8 月 16 日（図 25）、2019 年 9 月 12 日（図 18）の成鳥と、2012 年 9 月 2 日の幼鳥（図 19）の 5 個体です。この他に 2007 年 10 月 2 日に愛知県で幼鳥 1 個体を見ています。ハリオシギはチュウジシギに比べると渡来数は少ないですが、渡来時期はチュウジシギとほぼ同じです。ハリオシギは類似の 4 種の中では尾が短く、寸詰まりの小柄な体形で、頭側線に淡色斑が入っています。また、4 種の中では顔の白さが目立ち、一番かわいい顔をしています。

図 16　ハリオシギ　成鳥夏羽　2018.05.10

図 17　ハリオシギ　成鳥夏羽後期　2012.08.11

図 18　ハリオシギ　成鳥冬羽　2019.09.12

図 19　ハリオシギ　幼鳥　2012.09.02

アオシギとヤマシギ

アオシギはタシギよりは大きく、オオジシギとほぼ同大で、頭部から上面は赤褐色で黒斑模様があり、顔からの上面と下面の白色部には薄い青味があります（図 20）。ヤマシギはオオジシギよりやや大きく、太めの体形をしています。頭部に太い黒褐色の横斑があり、頭頂が尖っています。また、体上面は赤褐色に黒、白、淡色の複雑な模様をしています（図 21）。アオシギとヤマシギの 2 種は羽模様と羽色、体形から他のジシギとの識別は容易です。

図 20　アオシギ　成鳥冬羽　2008.01.19

図 21　ヤマシギ　成鳥冬羽　2019.01.21

最後に

酷似している種でも、種が違えば体形、顔つき、羽模様などに違いがあるはずです。観察経験を積むことでその違いが分かるようになるのだと思います。図 22 ～ 27 の 6 種の各シギの真横の写真から体形を始めとする違いが見えてきませんか。

図 22　シギ科タシギ属　タシギ

図 23　シギ科タシギ属　オオジシギ

図 24　シギ科タシギ属　チュウジシギ

図 25　シギ科タシギ属　ハリオシギ

図 26　シギ科タシギ属　アオシギ

図 27　シギ科タシギ属　ヤマシギ

ほのぼの鳥さんWatching

ことり祭り

松阪市 中村 真理子

10月1日 さわやかな秋晴れ。
気の合ういつもの鳥友達と
松阪市民憩いの場『ベルファーム』へ。
たくさんの鳥さんに会えました。

歩き出したとたん
カラ類の混群が
お出迎え!!

鳥目線

新型コロナウイルスの影響で
マスクをしての鳥見。
暑いわ 双眼鏡は曇るわ
さらに人との距離を
気にしながらということで
やっぱり不便でしたが
それも吹き飛ぶくらい
かわいい姿に癒やされます。

コサメビタキ

葉っぱに隠れながら顔を出してくれたのは**コサメビタキ**。

コサメビタキの魅力はなんと言ってもその大きな瞳。うらやましい……

こんな小さな体で渡りをするのかと思うと、そのかわいい外見からは計り知れない生命の力強さに驚かされます。

エゾビタキ

小さな池の上にかかった枝に**エゾビタキ**発見。

しきりに枝と池の上を行ったり来たり。
池のまわりは虫が豊富、お食事に夢中です。

一見グレーで地味なようですが、おなかの縦斑がなかなかのオシャレ上級者♡

野鳥記録（2020 年 07 月 05 日から 2020 年 11 月 15 日までに報告があったもの）

野鳥の種類名	個体数	観察日	観察場所（三重県）	雄 / 雌 / などの区別	記録報告者氏名	脚注
カンムリカイツブリ	3	2020/ 7/10	三重郡川越町 朝明川河口	成鳥 2 幼鳥 1	安藤 宣朗	1
カイツブリ	4	2020/ 7/ 5	県立鈴鹿青少年の森 道伯池	成鳥 2 幼鳥 2	寺尾 幸太朗	2
バン	4	2020/ 7/19	四日市市高見台 調整池	成鳥 1 幼鳥 3	三曽田 明	3
ハシビロガモ	1	2020/ 8/10	北勢中央公園	雌	三曽田 明	4
アオバト	2	2020/ 8/22	津市 河芸町	2 羽	唐津 敏明	5
ヤマガラ	1	2020/ 8/23	垂坂公園		今西 純一	6
チュウサギ	19	2020/ 8/25	津市 安濃町内多の水田		平井 正志	7
アマサギ	23	2020/ 8/25	津市 安濃川左岸の水田		平井 正志	8
ハヤブサ	1	2020/ 9/ 1	津市 安濃川河口	幼鳥	平井 正志	9
コウノトリ	1	2020/ 9/11	松阪市飯高町		西村 四郎	10
キビタキ	3	2020/ 9/21	垂坂公園	雄 2 雌 1（若）	今西 純一	11
メボソムシクイ	1	2020/ 9/21	垂坂公園		今西 純一	12
エゾビタキ	5	2020/ 9/21	垂坂公園		今西 純一	13
コサメビタキ	2	2020/ 9/21	垂坂公園		今西 純一	14
オオムシクイ	1	2020/ 9/27	垂坂公園		今西 純一	15
エゾビタキ	2	2020/ 9/22	北勢中央公園		三曽田 明	16
コサメビタキ	1	2020/ 9/27	北勢中央公園		三曽田 明	17
コサメビタキ	20	2020/ 9/28	北勢中央公園		今西 純一	18
ミヤコドリ	14	2020/10/ 2	四日市市磯津 鈴鹿川本流河口		横山 真一	19
オオルリ	1	2020/10/ 2	垂坂公園	雄（若）	今西 純一	20
コオバシギ	1	2020/ 9/ 5	香良洲海岸		鈴木 健真	21
ノビタキ	1	2020/ 9/16	いなべ市北勢町		鈴木 健真	22
アカアシシギ	1	2020/ 8/31	金剛川河口		鈴木 健真	23
ツツドリ	1	2020/ 8/26	北勢中央公園		鈴木 健真	24
オシドリ	1	2020/10/ 5	北勢中央公園		鈴木 健真	25
コサメビタキ	1	2020/ 8/24	庭田山		鈴木 健真	26
サシバ	1	2020/ 8/21	藤原町坂本		鈴木 健真	27
イカル	3	2020/ 8/11	県民の森	幼 2 成 1	鈴木 健真	28
ササゴイ	1	2020/ 8/19	北勢中央公園		鈴木 健真	29
ミヤコドリ	32	2020/ 9/27	高松海岸		鈴木 健真	30
オオセグロカモメ	2	2020/ 9/27	高松海岸	幼 2	鈴木 健真	31
ハイイロチュウヒ	1	2020/10/12	いなべ市北勢町	雌	代理投稿	32
ジョウビタキ	1	2020/10/18	垂坂公園	雌	今西 純一	33
シロハラ	1	2020/10/24	垂坂公園		今西 純一	34
ムギマキ	1	2020/10/26	津市桂畑地内の瀬戸林道	雄 (若)	前田 聰	35
ヒドリガモ	1	2020/11/ 1	鈴鹿市	雌	今西 純一	36
セイタカシギ	11	2020/11/14	鈴鹿市		今西 純一	37
ビンズイ	1	2020/11/14	鈴鹿市		今西 純一	38
セグロセキレイ	1	2020/11/14	垂坂公園		今西 純一	39
アメリカヒドリ	1	2020/11/14	鈴鹿市	雄	今西 純一	40
ミヤコドリ標識 (T7)	1	2020/11/14	安濃川河口		今井 光昌	41

野鳥の種類名	個体数	観察日	観察場所（三重県）	雄 / 雌 / などの区別	記録報告者氏名	脚注
コモンシギ	1	2020/ 9/ 7	三重県多気郡明和町	幼鳥	今井 光昌	42
ミヤコドリ標識 (T7)	1	2020/10/29	雲出川河口	成鳥	今井 光昌	43
ヘラシギ	1	2020/10/29	曽原新田		今井 光昌	44

脚注

1. 越夏するのか？繁殖しているのか？この時期に観察は珍しい。
2. 成鳥 1 羽と幼鳥 1 羽が一緒に泳いでいました。池の別のところに成鳥が 1 羽、また別のところに幼鳥が離れて泳いでいました。これらが家族かは分かりません。
3. バンの他、カイツブリとカルガモも繁殖に成功している。
4. 公園の整備が進んで、市場溜上池の奥の様子が分かるようになった。ハジロガモが越夏。
5. 潮干狩りの人が近くを歩くので、飛んでは、舞い戻り、塩分補給。
6. 既報しろちどり 106 号参照。
7. 刈跡の水田にアマサギと混群。
8. チュウサギと共に刈跡の水田にいた。
9. 非常に空腹らしく、海岸のゴミをしきりにつついていた。
10. 地元の方の話では 2020 年 9 月 1 日からいるそうです。
11. 雌は何度も地面に降りて写真のように虫干し？をしていました。大雨覆の先端に斑があり、若い個体のようです。雄 2 羽は成鳥で近い場所にいてエゾビタキやコサメビタキと喧嘩していました。昨年も 9/20 に同じシーンを見ています。
12. 時期的にオオムシクイの可能性もあります。
13. 9/19 までは何もいませんでしたが、9/21 にどっと増えました。（昨年とほぼ同じ時期です）コサメビタキとは喧嘩しませんが、キビタキとはよく喧嘩していました。5 羽まで確認、もっといたかもしれません。
14. フライングキャッチを繰り返していました。エゾビタキと比べると警戒心が強く感じました。
15. 垂坂公園では 2018 年 10 月 27 日、2019 年 10 月 6 日に確認しています。地鳴きが大きいので遠くからよく聞こえて探しやすい。
16. 5 日後の 9/27、丁寧に探しましたがもう見つかりませんでした。
17. 盛んにフライングキャッチで採餌していました。
18. 20 羽以上が飛び回っていました。気温が上がって虫が動き始めるからでしょうか。
19. 冬鳥としては早い訪れにびっくり。散らばっていたので全数一画面に入らなかった。
20. 家族が観察・撮影しました。垂坂公園では初めて記録しました。
21. 潮が満ち始めた干潟でキョウジョシギ、ダイゼンとともに採餌。
22. 初認。
25. 山側の池に 1 羽でした。
32. 笹間 俊秋の代理投稿です。二ノ瀬峠を越えていくハイイロチュウヒの雌でした。この種の渡りは、ほとんど確認されていない。
33. 今冬の初認。昨年（2019 年 10 月 20 日）とほぼ同じ時期。まだ警戒心が強いです。
34. 今冬の初認。まだ警戒心が強く証拠写真だけです。5 冬続けて飛来している。
35. この地域内では初認であった。
36. 2017 ～ 2018 年の冬から 4 期連続で飛来している、白いアイリングのあるメジロなヒドリガモです。
37. 今年もセイタカシギが 11 羽来。昨年の初認が 10/5。
38. 年々飛来数が減ってきている。野良猫の数が増えているのが影響しているかもしれない。
39. セグロセキレイがメダカを食べていました。昆虫食のイメージだったので驚きました。
40. 2018 年度の冬から 3 年続けて飛来している個体と思われる。エクリプスに近い羽衣。胸の赤みが均一化して葡萄色になると思われる。
41. 安濃川河口の干潮時に干潟に居た 17 羽のミヤコドリの内の 1 羽。T7 個体。
43. 報告時の 2020.11.17 現在　滞在中です。

コウノトリ：西村 四郎

ムギマキ：前田 聡

ヘラシギ：今井 光昌

アオバト：唐津 敏明

コモンシギ：今井 光昌

エゾビタキ：今西 純一

アカアシシギ：鈴木 建真

ササゴイ：鈴木 建真

理事会報告

2020 年 10 月 18 日 (日)　津市安濃町公民館　　出席：11 名

【協議事項】

1. 探鳥会再開について
   - 12 月から再開する。　ただし、リーダーが同意しなければ中止。
   - 博物館側の態度未定＝博物館との共催は未定
   - 開催予定＝木曽三川　合同探鳥会
   - 開催の条件　会員限定（コロナ対策）

     参加者名簿：できる人はスマホ登録機能を使う。マスク（マスクなしは参加拒否、連絡先書かない人＝参加拒否)。体温＝自己申告。望遠鏡の貸し借りなし。乗り合わせなし。アルコールスプレイ＝適宜使用する。互いに近寄らない。1 グループ 15 人を限度とする。　　鳥合わせ：簡単にする。
2. 宿泊探鳥会＝中止
3. ひとり探鳥（会報の記事）を充実させたい。
4. 野鳥記録委員＝平井、西村四郎、三曽田、笹間　4 名で始める。

【報告事項】

1. 紀伊長島沖大島のドブネズミ駆除　環境大臣に要請した。
2. サントリー愛鳥基金＝ 20 万円を申し込み済。

   内容（2021 年度　伊勢湾の水鳥保護と調査＝ミヤコドリ調査、看板立て、啓蒙パンフ）
3. 風力発電＝ (仮称) ウインドファーム布引北風力発電事業、クマタカの推定衝突率　高い。

   反対意見書、陳述 10 月 24 日（土）（平井・西村泉）
4. 鳥羽太陽光発電の現状報告
5. ミヤコドリカウント　10 月 24 日　予定
6. 安藤副代表　退会。調査内容、引き継ぎ。シギチ調査は今後も続ける。
7. 会報発行予定

   次号：1 月初め　　次々号：3 月中旬（行事案内同封）それ以降。年 4 回か？

【その他】

1. 総会をどうするか 会場は公共交通機関で便利な所に確保しておく。
2. Web 会議のやり方を講習した。
3. 安藤副代表　退会のあいさつ

事務局だより

活動の記録（2020 年 9 月～ 11 月）

2020 年

9/15	「公益信託　サントリー世界愛鳥基金　地球愛鳥活動助成部門　2021 年度募集」に応募
10/　5	会報誌「しろちどり第 106 号」発行・発送作業
10/18	2020 年度第 1 回理事会（津市）
10/24	第 2 回ミヤコドリ一斉調査
10/24	「(仮称) ウインドパーク布引北風力発電事業に係る環境影響評価準備書」に対する意見聴取会へ出席・意見発表（伊賀市）
10/29	環境省へ「オオミズナギドリが繁殖する紀伊長島沖大島のドブネズミ駆除」を要請
11/　5	紀北町教育委員会へ 打ち合わせ
11/12	「度会・南伊勢風力発電所建設計画　環境影響評価方法書」を縦覧
11/20~	会報誌「しろちどり第 107 号」編集・校正作業

探鳥会予告 (2021 年 1 月～ 3 月)

あいかわらず、新型コロナウイルスは県内でも蔓延しています。条件の整った探鳥会は開催しますが、中止のものもあります。また、直前に中止になる場合もあります。リーダーに問い合わせる、あるいは当会のホームページ、Twitter(@wbsj_mie) **などで確認してください。**

なお、ひとりで、あるいは夫婦や子供と探鳥し、他人に合わない場合はほとんど感染の可能性がありません。大いに「ひとり探鳥」を楽しんでください。

● 1 月 17 日 (日)　肱江川探鳥会　**（中止）**

● 1 月 24 日（日）　木曽岬干拓地探鳥会　雨天決行！
開催地／愛知県弥富市　鍋田干拓地・木曽岬干拓地
集合／　9:30　愛知県 弥富野鳥園
解散／ 12:30　集合地
共催／愛知県野鳥保護連絡協議会

● 1 月 24 日（日）　上野森林公園探鳥会　**（中止）**

● 1 月 26 日（火）　木曽三川探鳥会
開催地／桑名市・海津市・愛西市
揖斐川・長良川・木曽川
集合／　9:30　桑名市　多度大社前駐車場付近
解散／ 12:30　集合地
共催／桑名市

● 1 月 31 日（日）　大淀海岸探鳥会　小雨決行！
開催地／多気郡明和町　大淀海岸周辺
集合／　9:30　大淀小学校前　業平の松公園
解散／ 11:30　集合地

● 2 月 7 日 (日)　鈴鹿青少年の森探鳥会　小雨決行！
開催地／ 鈴鹿市　県営鈴鹿青少年の森
集合／ 10:30　管理事務所前（プレハブの建物）
解散／ 12:30　集合地
共催／鈴鹿市環境政策課
備考／**参加予約必要**
鈴鹿市環境政策課（059-382-7954）

● 2 月 13 日（土）　丹生探鳥会
開催地／多気郡多気町　丹生
集合／　9:30　ふれあいの館（丹生大師前）
解散／ 11:30　集合地

● 2 月 14 日（日）　五十鈴川周辺探鳥会
開催地／伊勢市浦田町　五十鈴公園
集合／ 10:30　浦田町バス停
解散／ 11:30　現地

● 2 月 20 日（土）　三滝川かんさつ会　小雨決行！
開催地／三重郡菰野町　三滝川河川敷
集合／　9:30　　大羽根グランド駐車場
解散／ 12:30 頃　集合地

● 2 月 21 日（日）　津偕楽公園探鳥会
開催地／津市広明町　津偕楽公園
集合／ 10:30　津偕楽公園駐車場
解散／ 11:30　集合地

● 2 月 28 日（日）　木曽岬干拓地探鳥会　雨天決行！
内容は、1 月 24 日と同じです。

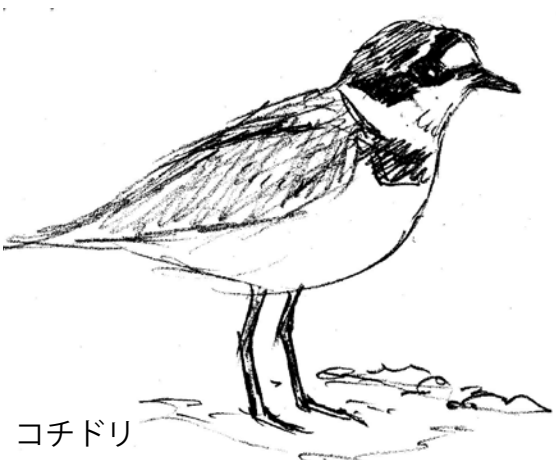
● 3 月 6 日（土）　身近な冬鳥を観察しよう（海辺の鳥）
開催地／三重県総合博物館
及び 津市高洲町 安濃川河口右岸
集合／　9:30　三重県総合博物館
2 階 エントランスホール
解散／ 12:30　現地
共催／**三重県総合博物館・**
三重県環境学習情報センター
備考／**参加予約必要**
三重県総合博物館　059-228-2283

● 3 月 7 日 (日)　石垣池探鳥会
開催地／ 鈴鹿市石垣 3 丁目　石垣池
集合／ 10:30　石垣池駐車場横
解散／ 12:30　現地

● 3 月 9 日（火）　海蔵川で鳥見 ing!
（バードウオッチング）その 6　　小雨決行！
開催地／四日市市西坂部町　海蔵川沿い
集合／　9:45　海蔵川代官橋 北詰
解散／ 12:30　集合地

● 3 月 20 日 (土)　宮リバー公園探鳥会　初心者歓迎
開催地／ 度会町　宮リバー公園周辺
集合／　8:30　バザールわたらい前 駐車場
解散／ 11:30　現地

● 3 月 28 日（日）　木曽岬干拓地探鳥会　雨天決行！
内容は、1 月 24 日と同じです。



コチドリ

探鳥会報告（2020 年 9 月～ 2020 年 11 月）

●五主探鳥会

2020 年 9 月 12 日（日）9:30 ～ 11:30
松阪市五主海岸
吉崎幸一　参加者 1 名（会員 1 名）

カワウ、アオサギ、ダイサギ、ダイゼン、シロチドリ、メダイチドリ、チュウシャクシギ、ホウロクシギ、キアシシギ、イソシギ、キョウジョシギ、トウネン、ハマシギ、ウミネコ、セグロカモメ、オオアジサシ、ミサゴ、トビ、チョウゲンボウ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツバメ、イソヒヨドリ、ハクセキレイ　計 24 種

秋雨前線による影響と思われるくもり模様の天候でしたが、風も穏やかで、暑さもそれほどでない探鳥でした。

潮の具合も良いと思われましたが、シギ・チドリ類は種類も数も少なめでした。それでも、ホウロクシギ、チュウシャクシギやキョウジョシギ等を観察することができました。また、水際の漂着物の上に佇むトウネンをじっくり観察しました。ツバメはねぐらの方に集まっているのではないかと思われ、姿を見たのは 2 羽のみでした。

堤防沿いでは、既に飛来しているチョウゲンボウがカラスの群れに追いかけられていました。近くをホバリングするチョウゲンボウを見ながら帰途に就きました。

●庭田山タカ渡り探鳥会

2020 年 9 月 22 日（火・祝）10:30 ～ 13:30
海津市　庭田山頂公園
笹間俊秋　米倉 静　参加者 2 名（会員 2 名）

キジバト、ハチクマ (9)、トビ (3)、オオタカ (1)、サシバ (19)、ノスリ (7)、クマタカ (1)、コゲラ、アカゲラ、カケス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ　計 14 種

朝から晴天に恵まれましたが風はありませんでした。

探鳥会は中止しましたが、タカの渡り観察地として一般の方 10 人以上が観察されていました。10 時の開始直後にクマタカが横切りましたが、11 時過ぎまで全くタカは渡りませんでした。しかし、11 時 30 分ごろから 1 時間のうちにサシバ (19)、ハチクマ (9)、オオタカ (1)、ノスリ (7)、トビが渡って行きました。それ以降は渡っていかず、13 時で観察を終えました。

●木曽岬干拓地探鳥会

2020 年 9 月 27 日（日）9:30 ～ 12:30
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／愛知県野鳥保護連絡協議会
近藤義孝　笹間俊秋　参加者 9 名（会員 9 名）

カルガモ (5)、キジバト (6)、カワウ (15)、アオサギ (2)、ダイサギ (11)、コサギ (6)、コチドリ (1)、クサシギ (1)、イソシギ (2)、ミサゴ (5)、トビ (5)、サシバ (3)、ノスリ (1)、カワセミ (2)、コゲラ (1)、チョウゲンボウ (2)、モズ (6)、ハシボソガラス (100)、ハシブトガラス (4)、ヤマガラ (1)、ヒバリ (9)、ツバメ (7)、ヒヨドリ (13)、メジロ (1)、セッカ (3)、ノビタキ (2)、エゾビタキ (2)、スズメ (14)、ハクセキレイ (6)、セグロセキレイ (1)、カワラヒワ (5)、ホオジロ (4)、ドバト (42)　計 33 種

今までコロナの影響で一般参加者は参加できませんでしたが、この日は愛知県支部会員 7 名が参加されました。

渡りの季節と言うことで、焼却炉の煙突周辺に猛禽が舞っており、確認するとつがいのチョウゲンボウとトビ 3 羽、サシバ 2 羽が空高く上がって行きました。田んぼにはノビタキが 2 羽杭の上にとまっており、他にエゾビタキなども確認することができました。

●みつえ高原牧場タカ渡り探鳥会

2020 年 9 月 27 日（日）8:30 ～ 11:30
奈良県宇陀郡御杖村菅野　みつえ高原牧場
南 一朗　田中豊成　参加者 3 名（会員 3 名）

キジバト、ハチクマ (5)、トビ、サシバ (53)、アカゲラ、アオゲラ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、スズメ、キセキレイ、セグロセキレイ
計 17 種 その他　ツバメ spp.

朝からどんよりとした曇りにもかかわらず、サシバ 53 羽、ハチクマ 5 羽が渡っていきました。その他、近くの木にアカゲラがとまり、その去ったあとにアオゲラがとまるなど楽しませてくれました。

●相津峠タカ渡り探鳥会

2020 年 10 月 3 日（土）8:30 ～ 15:30
松阪市飯南町　相津峠
西村四郎　中村洋子　参加者 4 名（会員 4 名）

キジバト、アオバト、アマツバメ、ハチクマ、トビ、ノスリ、コゲラ、アオゲラ、モズ、カケス、ハシブトガラス、コガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、エゾビタキ、キセキレイ、ソウシチョウ　計 22 種

基本は中止ですが、集合場所の道の駅「茶倉」に 4 人集まったので、雨の中峠へ向かいました。

峠に着くと、だいぶ小やみになっていて、カラ類が迎えてくれました。ウグイスやソウシチョウが囀っていました。エゾビタキがこずえの上をチョンチョン飛んでいました。

しかし、霧が立ち込めていて東屋の近くをウロウロ過ごし、O 氏差入のゆで栗などをいただき、霧が晴れ始めた 1 時間後位に「感謝の丘」まで登りました。「感謝の丘」でも霧が出たり晴れ間が覗いたりで、なかなか調子は良くなくて 11 時頃に切り上げました。

茶倉駅では晴れ間ものぞいていて、ハチクマ 1 羽観察できました。

お昼後、一人で再度、峠で観察しましたが、ノスリ 1 羽のみでした。

参考：10/2　サシバ 141 羽
　　この日はよく飛んだ。
　　10/4　サシバ 11 羽

●伊勢タカ渡り探鳥会

2020 年 10 月 4 日（日）7:30 ～ 11:30
伊勢市　伊勢やすらぎ公園
中西 章　高木正文　参加者 4 名（会員 4 名）

キジバト、トビ、サシバ (3)、アオゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツバメ、ヒヨドリ、キセキレイ、ホオジロ　計 11 種

探鳥会はコロナで中止となったが、タカ渡りのピーク時でもあり、会員 4 名が集まった。しかしスタート時は小雨で、霧や低い雲の中、タカが渡る気配はまったく感じられなかった。9 時過ぎになり、薄日が差してきた頃、おそらく周辺にいたサシバ 3 羽が渡って行った。

●市木川河口及び水田探鳥会

2020 年 10 月 11 日（日）9:30 ～ 12:30
南牟婁郡御浜町市木　市木川河口
笹間俊秋　参加者 1 名（会員 1 名）

オカヨシガモ、マガモ、カルガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、トビ、ノスリ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、ノビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、ドバト、コジュケイ　計 26 種

台風接近のため、翌日に観察しました。台風一過で雲一つない晴天でしたが、気温が上がり暑かったです。橋からイワツバメが多数出入りしているため、橋の下を見てみると営巣の真っ最中でした。200 羽以上が餌を捕って雛に運んでいました。水田ではノビタキがいましたが、例年より数が少なかったです。

●木曽岬干拓地探鳥会

2020 年 10 月 25 日（日）9:30 ～ 11:30
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／愛知県野鳥保護連絡協議会
近藤義孝　笹間俊秋　参加者 10 名（会員 10 名）
それぞれ別々に観察

オカヨシガモ (2)、カルガモ (70)、コガモ (110)、カイツブリ (1)、キジバト (1)、カワウ (12)、アオサギ (5)、ダイサギ (3)、オオバン (1)、タゲリ (16)、クサシギ (1)、ミサゴ (5)、ハチクマ (3)、トビ (6)、チュウヒ (1)、オオタカ (1)、ノスリ (16)、チョウゲンボウ (4)、モズ (10)、ハシボソガラス (60)、ハシブトガラス (15)、ヒバリ (2)、ツバメ (2)、ヒヨドリ (10)、メジロ (10)、セッカ (1)、ムクドリ (2)、ジョウビタキ (3)、スズメ (60)、キセキレイ (1)、ハクセキレイ (15)、セグロセキレイ (2)、ホオジロ (4)、ドバト (1)
計 34 種

愛知県支部は探鳥会を再開しているため、10 名の参加となりました。

タカ柱が観察でき、ハチクマやノスリ、トビなどが旋回していました。カモ類も戻ってきました。

●中村川探鳥会

2020 年 11 月 8 日（日）9:30 ～ 11:30
松阪市嬉野一志町　中村川中流域
吉崎幸一　参加者 1 名（会員 1 名）

カルガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、クサシギ、トビ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、ムクドリ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ　計 24 種

風はやや冷たかったですが 11 月にしては暖かく、まずまずの天候での探鳥でした。

あちこちから、モズとジョウビタキの声が聞こえてくる中で観察を始めました。モズは枝先や電線などに止まっている姿が見られました。ジョウビタキどうしで縄張り争いと思われる追いかけまわす姿も見られました。河川敷には草が茂り、観察しづらかったですが、カワラヒワは茂みの上を飛び回り、茂みの中からはホオジロやアオジの声も聞こえました。その他、住宅の上を飛び回るチョウゲンボウが見られました。

～ツイッター始めました～

編集部

↓ Twitter のアカウントです。
@wbsj_mie

ツイッターのアカウントがなくても、直接ブラウザからでも見れます。↓
https://twitter.com/wbsj_mie

今年度の探鳥会はコロナ禍で、中止になったり再開したりと臨機応変に対応せざるを得ません。Twitter では、そういった予定の変更もリアルタイムでお知らせします。是非フォローしてください !!

放送のお知らせ

編集部

北勢地方のケーブルテレビ・CTY のコミュニティーチャンネル　**ケーブル News**（地上デジタル 121ch　月～金 18:00 ～ 18:20）にて、2021 年 1 月 5 日（火）放送番組内「みんなで守ろうこのまちのいきもの」コーナーにて高松海岸のミヤコドリが紹介されます。また、2 月 5 日（火）には木曽岬干拓地のチュウヒが紹介されます。

放送エリア以外の方や見逃がされた方でも、CTY ホームページ内で、1 か月限定で動画を見ることができます。三重の野鳥が紹介されますので、是非みなさん見てください。

詳細は下記を参照してください。

CTY ケーブル News［過去の放送］
番組 URL　**http://ctycns-streaming.evv.jp/#s=1**
QR コード

編集後記

今年はコロナの影響で探鳥会が満足に開催できていないので、会員交流の場が少なくなった。それで年 4 回発行であった会報を年 5 回発行とした。幸い、編集部 3 人の体制がうまく働き、Web 上での編集会議も軌道に乗り、なんとか 5 回の発行をこなせた。

来年もこの発行回数を維持するか、検討中である。完成原稿の校閲など、編集を手伝ってもらいたい所は多々ある。手を挙げていただければ編集部としては歓迎する。また、どしどし、投稿もしてほしい。

むろん、それより、コロナが収まってくれればよいのだが、その兆しは全くない。人とモノの激しい移動、交流を前提とする現代社会、特に大都市のあり方を見直すべきなのであろう。物流と人の移動を抑制することは地球温暖化防止にとっても好ましいことである。（M.H.）

しろちどり　107 号
2021 年　1 月 1 日発行
題　字：濱田 稔
表紙絵：平井 正志
カット：平井 正志
編　集：平井 正志・笹間 俊秋・三曽田 明
発行所：日本野鳥の会三重
平井 正志　方
〒 514-2325 津市安濃町田端上野 910-49
ホームページ　http://miebird.org/
印　刷：株式会社プリントパック
〒 617-0003 京都府向日市